

日本記者クラブ会報

第468号
2009年
(平成21年)
2月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区内幸町二ノ二
日本プレスセンタービル
© 社団法人 日本記者クラブ
http://www.jnpc.or.jp

シーファア米大使のお別れ会見

第27代駐日米国大使 J・トーマス・シーファアさんは1月15日帰国した。その前日にクラブでのお別れ昼食会が開かれた。これが大使としての最後の公式行事だった。

アラスカのシェフが用意したこの日の昼食メニューは、スープがコンソメでメインディッシュはミックスグリーン。米国産の牛肉とポーク、豪

州産の仔羊肉（豪州大使のあと駐日大使に）の3種に温野菜が添えられた。ゆでたアスパラのサラダと、パインアップルのデザートは大使の希望だった。

4回目なので、シェフも大使の好みを心得ていた。ソースは一切使わず素材の味で召しあがってもらおうようにした。最後にコーヒーが出席者にサーブされたが、大使はコーヒーがダメなのでハーブティーをお出しした。

正直言って、いつもこんなメニューに気がつかっているわけではない。着任以来、毎年欠かさずクラブの招待に応じていただいていたことへのさやかな感謝の気持ちを表したかったからだ。

米国だけでなく、中国、ロシア、韓国などの大使

クラブの時間を、船橋企画委員長がお礼を述べて会見は始まった（1. 14）

には年に一度はお越しいただきたいのだが、必ずしも実現していない。その点、状況のいかんにかかわらず、シーファア大使はクラブの招待を受けてくれた。米国政府高官や議員などの訪日が増減してきているだけに、大使から日米関係について定期的にまとまった話をうかがい、質疑応答の時間をとっていただくことは貴重だった。

最後のスピーチは米国の自負と責任を体現し、大使の洞察力がきわだつ力感あふれるものだった。日本への率直な発言もみられた。中国、インドなどが台頭し、イスラム原理主義、核拡散の懸念が広がる世界で、新しい国際秩序が形成されつつあるのに、日本は冷戦下の日米安保の片務性に甘え、新状況での国際的役割意識が弱い、と言いたかったのだらうと理解した。

多くの人の名をあげて、在任中の助言、友情、協力を感謝を示したが、特筆大書は小泉純一郎元首相と加藤良三前駐米大使だった。前者は移行

期の国際秩序を主導したとして。後者は米国の短所も大きな志も知悉したよき助言者として。

オバマに投票したとしながらも、終始、ブッシュ大統領への心くばりも忘れなかった。代表質問6問に加えて、会場からの11人の質問にテキサス人らしく直球で答えた。その中にこんな発言もあった。

「日本の一般市民から孤立してはいけない。政府関係者や大使がミスをするところがあるとすれば、話しにくいときに隠れてしまうこと。そうしたときこそ話をしなければならぬ。信頼される仕事ができるかどうかは、そういうとき人々と対話の機会を持ち、考えを伝えることができるかどうかにかかっている」

各界のトップ級の方々には心に留めていただきたい言葉だ。

ところで、大使が帰国したあと、1月18日付の毎日新聞でこんなことを知った。「発信箱」というコラムで藤原章生記者が、泣いたアメリカ人々を書いていて、それによると帰国の3日前に大使夫妻はねむの木学園を訪れ、宮城まり子さんのオムレツと生徒の歌で歓待され、別れるときは涙ボロボロだった、と。

（専務理事 岩崎玄道）

池尾 和人 慶応大学教授

1・19(月) 司会 広瀬和彦委員
出席 125人

▼世界的不均衡が原因

新年経済見通しシリーズのトップバッターは、金融論の専門家である池尾和人氏。エコノミストのようにな「予想」を期待した人にとってはやや肩透かしだったが、学者らしい理論的な分析で明快な解説を聞くことができた。

金融危機

テーマは「米国金融危機と日本経済の見通し」。池尾氏がまず強調したのは、世界的な不均衡が金融危機の根本原因だという点だった。米国の経常赤字拡大の一方で、アジアやほとんどの新興国の積み上がったドル資金の運用先として米国の住宅資産が供給されたのが、問題の始まりだった。したがって、よく言われるように金融が実体経済を振り回したのではなく、実体経済が金融をゆがめたのだと池尾氏は言う。

このことは、今後の見通しを厳しものにしている。今回の金融危機によって、米国への投資と米国の経常赤字は縮小せざるを得なくなる。世界的不均衡の是正が進むことは好ましいことのように見えるが、その調整過程で世界経済は縮小均衡に陥る可能性が高い。日本経済にとって、このインパクトはかなり深刻。日本は輸出主導型の成長パターンはとれなくなり、「失われた15年」に逆戻りする懸念があるというのが、池尾氏の見立てだ。

あらためて金融危機の根深さを再認識させられた。だからこそ、政策が重要になってくる。日本経済がこの危機を乗り越えるためには、短期的な景気対策や金融政策だけではなく、実力を向上させて成長していくような経済構造に転換することが求められている。

テレビ東京出身

岡田 晃



のが、問題の始まりだった。したがって、よく言

研究会「2009年経済見通し」

リチャード・クー 野村総研チーフ
エコノミスト1・22(木) 司会 小此木潔委員
出席 160人

▼バランスシート不況だ

現在の世界不況を、クー氏は「バランスシート不況」と見立てる持論を展開、対応策は政府の財政出動しかない」と強調した。

あまりに財政出動を力説する議論は、やや「乱暴」に響くが、分かりやすい例を引いての説明は、説得力十分だった。



を引いての説明は、説得力十分だった。

米国、中国、欧州の三地域が同時に不況に沈み、日本も「あまりに外需依存を高めてしまったため、海外悪化の影響を受ける」事態に陥っている。各国中央銀行が揃って金利引き下げに踏み切っているが、「効果なし」なのは、1930年代の大恐慌と共通だそう。

資産価格が暴落して負債だけが残り、民間企業は借金返済に走る。ゼロ金利になっても企業は資金の借入ではなく、返済を進める。企業にとっては合理的な選

財政出動

択だが、この借金返済が景気を悪くするバランスシート不況だと説明。「非常に厳しい景気状況が続く」のを覚悟せざるを得ないという。

しかし、「望みがある」。それは「日本が15年前に全く同じ不況を経験した」ことがあり、その「経験」を生かせというのだ。

クー氏によると、日本はバブル崩壊により、資産価格が下落、商業地の地価は87%暴落した。土地と株式を合わせると、国内総生産(GDP)の3倍にも及ぶ1500兆円の富を失った。それでも、日本のGDPはバブル時のピークを下回ったことはない。

それは、「政府が金を借りて使ってくれた。税収は落ちたが、歳出を増やした」——財政出動の効果で、無駄な公共投資だったとの批判は当たらないというのだ。

各国政府が財政出動に踏み切れれば、「世界は大恐慌に陥らずに済む」という処方せん。

米国でも「最近では財政出動の必要性に理解が深まっている」と、クー氏は指摘していた。

時事通信出身

稲田 好美

▼半年間でGDP 30兆円減か

米国の消費が落ちると日本の輸出が減る、だから日本は80年代半ばから対米輸出比率を減らし、東南アジア向けなどに輸出をシフトしてきた。しかし、アジアは日本からの輸入品を加工して対米輸出に回していた。米国の消費減は日本からの輸出も、アジア経由の日本の輸出も減らした。08年第3四半期、米小売売上高



が4・1%落ちた
ら3カ月
後の第4
四半期の
日本の輸
出は53・

日本経済

1%も減った。第4四半期の米小売はもともと減っているから、日本の輸出はさらに落ち込む。

輸出減につれて設備投資も落ち込む。消費も冷える。結果的に米国の消費が1%減ると日本のGDPは1・7%落ちる。09年第1四半期までの半年で、日本のGDP 530兆円の5%

水野 和夫 三菱UFJ証券
チーフエコノミスト

1・26(月) 司会 小此木潔委員
出席 14人

余の30兆円が減るだろう。日本は米
国経済に80年代よりもさらに深く組
み込まれていた。

米国経済が金融バブルの破綻で抱
え込んだ4兆ドルの過剰債務の返済
には、5年かかる。その間、米国、
欧州、そして日本もマイナス成長が
続く。その調整期が過ぎた後、中国・
アジア諸国など新興国の実物経済が
拡大していくだろう。ユーラシア大
陸の真ん中に位置するアフガニスタ
ンを安定させた国が、世界経済の主
導権を握るのではないか。

米ドルはもはや基軸通貨には耐え
られない状態だ。米国経済の復活も
難しい。そうなれば4年後のオバマ
再選も困難ではないか。

日本は対米依存を脱して、新興国
とりわけアジアと結びつきを強め、ア
ジア全体の内需が日本の需要に結び
つくようにならない。

以上が、水野氏の分析のあらま
し。サブプライムローン問題が「ア
メリカ金融帝国」を崩壊させ、それ
が資本主義の始まりで、以来の世界
経済の地殻変動を起こしている、と
いう水野氏の話は説得的だった。

朝日新聞出身 見市 元

▼全治5〜6年の激震度

「世界的な金融危機と同時大不況
の深刻な状況が底入れするのは早く
て2010年の後半」「牽引力とな
るのはやはり米国。アジアや日本、E
Uでもない。米経済が復活するには
210兆円の需要が不足する。さらな
る財政出動が必要だ」――発足早々
のオバマ政権に新ニューディール政
策の追加投入を提唱する。

世界同時大不況

ウォール街の「高レバ
レッジ金融(信用バブル)」と
過剰消費依存の成長ビジネ
スモデルの崩壊の危険性を
早くから予報し、近著の
『資本主義は嫌いですか』
(08年経済・経営書のベス
トワン)で警鐘を鳴らした気鋭の竹
森俊平教授は、明晰な切り口で金融
危機の病状を診断し、世界同時大不
況脱却の処方せんを浮き彫りにして
くれた。



竹森 俊平 慶応大学教授

竹森さ
んは今回
の経済危
機の調整
の「長さ」

と「深さ」を探る手がかりとして過
去の世界各国の金融危機における4
つの平均値被害度▽住宅価格の下落
率36%、下落期間6年▽株価の下落
率56%、同3・4年▽失業率7%増、
上昇期間4・8年▽実質GDPの下
落率9・3%、下落期間1・9年――
をもとに分析する。

このモデルで推計すると、最も早
く底入れするのは実質GDPベース
で2010年後半。金融危機の震源
となった住宅価格の下落が底打ちす
るのは2012年になる。全治5
〜6年の長い不況と診断する。住
宅価格の下落はこれまで約20%。こ
れに伴う金融機関の損失はIMF推
計で200兆円。さらに20%下落し
底入れ完了するとみる。今回の危機
の激震度はすさまじい。

GDP 1500兆円の米国が回復
するには2年間で210兆円(年率
7%)のデフレ・ギャップに対応す
る必要があるとし、需要波及効果の
大きい公共投資に傾斜した巨額の財
政追加出動を促す。74兆円の1次景
気対策では浮揚力不足という。

日刊工業新聞客員論説委員

松本 明男

1・27(火) 司会 長谷川幸洋委員
出席 14人

葛西 敬之 かさい よしゆき JR東海会長

08・12・26(金) 昼食会 司会 伊藤
修一理事 菅沼堅吉委員 出席 106人

▼リニア「1県1駅は常識的」

東京―名古屋間290キロメートルを超電導磁気浮上方式で走らせる中央リニア新幹線。5兆1000億円をつぎこむ建設事業がJR東海の自己負担で着手される。

東海道新幹線が開業したのは、東京五輪が開かれた1964年のことだ。時速200キロで突っ走って東京―新大阪間を3時間

強で結んだ新幹線は、私を含めた昭和30年代生まれの鉄道ファンにとって、まさに「夢の超特急」だった。多くの夢を運んだ「0系」車両は昨年、山陽新幹線

からも姿を消した。その直後の昼食会だけに聞き逃せないと思われた。

なぜリニアが必要なのか。葛西会長によれば、新幹線による輸送力増強が限界に達したということらしい。現在は最高時速270キロで、運行本数は1時間に12本。最新車両の「N700系」を投入しても東京―新大阪間を5分しか短縮できていない。最大15本まで詰め込む余力は



ある。しかし、N700系で最高時速300キロの運用に切り替えても、加減速に必要な距離が延びるだけで、効率的な時間短縮にはつながらないようだ。

鉄道施設の老朽化に加えて、遠くからず東海大地震に襲われる恐れも指摘されている。長期にわたる運休を強いられれば、国内経済に与える影響は深刻だ。早い時期にパイパスを

新設しておくことも必要ではある。

ルート確定にあたり、沿線自治体との駆け引きも予想される。「1県1駅は常識的」としながら、講演では、「迂回させれば工事が問題」と直線ルートの妥当性をにじませた。

「リニアは陸上輸送の革命。21世紀の国民的な夢を実現させたい」と力説したが、開業予定の2025年には人口減少も進んでいる。果たして見込み通りの需要が生まれるのかどうか。質疑で確かめたいとも思っ

たが、講演時間が尽きていた。

読売新聞編集委員 左山 政樹

久保 文明 くぼ ふみあき 東京大学大学院教授

1・7(水) シリーズ研究会「オバマのアメリカ」① 司会 高畑昭男委員 出席 154人

▼まずは超大型景気刺激策の可決

若き黒人大統領は、危機に直面する米国をどうチェンジするのか。米国のオバマ政権が、世界の注目を集めていよいよスタートを切った。経済危機を打開してほしい。米国を再生させてほしい。こうした過大とも思える世論の期待に、彼はこたえられないのだろうか。

米国政治研究の第一人者の久保文明・東大教授は「政権発足後、一年間のうちに2、3本の重要法案を通せるかが死活的に重要だ」と指摘する。米国経済の浮沈がかかる超大型の景気刺激策は、政権発足直後の2月はじめに議会で法案を通すことを目指すとの見通しだ。



大統領選の勝利をもたらしたのには、黒人層、若者、高学歴層などの強い支持があった。人種の壁を乗り越え

て、機会をつかんだ「アメリカン・ドリーム」の体現者としての語り口が、支持者を熱狂させてきた。

だが「夢を語る候補者」としての成功が、実際の政権担当能力を保証するわけではない。イラク戦争反対を唱えてリベラル左派とみられていたオバマ氏だが、人事では思い切った中道派寄りの姿勢を打ち出した。

ライバルだったクリントン氏を国防長官に起用し、共和党のゲーツ国防長官を留任させた。外交も超党派ですすめたいというメッセージだろう。

気になるのは、新政権のアジア政策だ。民主党政権のもとで対中傾斜や日本軽視を懸念する声が、一部に根強い。久保教授は楽観的だ。オバマ政権は環境や援助などグローバル問題を重視するから、日本は協調しやすいはずという。「対中政策は労組や人権団体からタカ派まで米国内のイデオロギー対立が激しい。対日政策に党派対立はない」という。

とはいえ、剛腕の実務家ぞろいのオバマ政権だ。日本の実情も知り尽くして、「同盟国」であつても言い訳はききそうにない。

朝日新聞論説委員 水野 孝昭

トーマス・シーファー 駐日米大使

1・14 (水) 昼食会 船橋洋一委員長
中井良則委員 通訳 宮崎有美子
森万純 出席 120人

▼横田夫妻へのサポート続ける

「いま、私は一抹の寂しさに駆られておりますが、駐日大使はやりがいのある仕事でした」――翌日に離任を控えたシーファー駐日米大使。在任中に親交を深めた数多くの友人たちに思いを馳せながら、4年近くに及んだ日本での仕事をふり返った。

「あの運命の日に

横田めぐみさんが家族や友人から引き裂かれた道を、私は横田ご夫妻と一緒に歩いたことを忘れることはないでしょう」

「この悲しい拉致事件への取り組みに正義がもたらされるよう、私はどこへ行くこともサポート

することを約束いたします」

シーファー大使はブッシュ大統領との蜜月関係を築いた小泉純一郎元首相にも言及した。「日本に滞在するうちに、なぜ大統領が小泉首相を高く評価していたか分かりました。彼は、プリンシプルに基づきビジョンを守った指導者でした」。



太平洋を挟んで日米蜜月時代を支えたもう一人の黒衣、同じ野球好きで馬が合った加藤良三前駐米大使には、丁寧な感謝の言葉を添えて賛辞を贈った。「加藤大使はアメリカの短所を理解し、併せてアメリカの志をも理解しておられます。彼ほど立派に母国の代表を務めた外交官は他におりません。大使御夫妻から受けた御恩を私は決して忘れないでしょう」。

「あの運命の日に

昨年11月、次期大統領が選出された2日後、シーファー大使は、加藤氏を、王貞治、ウイリー・与那嶺氏らと共に公邸に招き、送別の宴を開いた。公邸内には、往年の名プレーヤー、ルー・ゲーリ

ック一塁手が1934年に来日した時に試合で使ったファーストミットが飾られていた。そのミットは、シーファー大使の任務完了と共に親善の役割を終え、ベースボールの聖地ニューヨーク州クーパーズタウンの「ホール・オブ・フェーム(野球の殿堂)」に戻って行った。

時事通信解説委員 鈴木 美勝

セルゲイ・ミハイロヴィチ・ミロノフ ロシア上院議長

1・15 (木) 記者会見 司会 中井康朗委員 通訳 吉岡ゆき サブリン・シラノヴィッツ (大使館) 出席 73人



▼プーチン大統領復帰「排除せず」

「ロシアの新聞を日常的に読んでいます。私の党は与党と書かれています。実際は野党です」。党首を務める「公正ロシア」の「第2与党」としての役割を尋ねると、こんな答えが返ってきた。昨年9月までの3年近く、共同通信モスクワ支局で「プーチン時代」のロシア政治の変遷を見守ってきたが、その分、かきにくさをあらためて実感した。

ミロノフ上院議長は今も圧倒的な支持率を誇る前大統領のプーチン首相の盟友。公正ロシアは2007年12月、プーチン氏が現在のメドベージェフ大統領への事実上の後継指名を行った際、巨大大政権与党「統一ロシア」などとともにメドベージェフ氏を支持し、日本のメディアでも第2与党と位置付けられてきた。

ソ連崩壊後の故エリツィン大統領時代のロシアでは、市場経済化の「ショック療法」を支持した急進改革派やリベラル派、保守派が乱立したが、旧ソ連国家保安委員会(KGB)出身のプーチン氏が2000年に大統領に就任して以降は次第に「総与党」に近い体制が築き上げられた。

公正ロシアは06年10月、左派系3政党が統合して結成されたが、当時もロシアではクレムリンが共産党の支持票を取り込む受け皿を狙ったとの見方があった。それでもミロノフ氏は、プーチン首相が党首を務める「自由保守主義」の統一ロシアに対し、「社会民主主義」の公正ロシアは左派の野党であると強調する。この立場を尊重すれば、与野党の健全な競争が行われているという国の体面も整うことになる。

「観測気球」と受け取られる発言でも知られたミロノフ氏。メドベージェフ大統領の任期が切れる12年にプーチン首相が大統領に復帰する可能性を問われると「私は排除しません」と答え、笑みを浮かべた。

共同通信外信部デスク(前モスクワ支局長) 三宅 利昌

フィリップ・フォール 駐日フランス大使

▼大統領は年末か1月に

「フランスのサルコジ大統領は日本をあまり好きじゃないと思われるようなのだが、決してそんなことはない」

日本記者クラブで会見したフランスのフォール駐日大使は、昨年2月の着任以来、おそらく数え切れぬほど繰り返した弁明を繰り返して、フランスがいかに日本との関係を重視しているかを強調した。



サルコジ氏の日本観に疑念を抱かせるきっかけは「相撲は知的なスポーツじゃない」などと日本文化を冷ややかに論じた5年前の発言。サルコジ氏は2007年の大統領就任以来、昨年の洞爺湖サミットを除けば日本を訪問していないこともあり、日本の外交当局者の間では疑念が確信に変わりつつある。

ただ、フォール大使の解説による

1・21(水) 開会 司会 中井康朗委員
通訳 三宅薫子(大使館) 出席 75人

と、サルコジ氏の相撲発言の狙いは、当時微妙な関係にあったシラク前大統領を「間接的にやゆする点にあった」のだという。シラク氏は、愛犬に「スモウ」と命名するほどの相撲愛好家として知られていることが背景にある。

サルコジ氏の訪日見通しについては大使は「2009年度中。おそらく今年12月または来年1月」と説明。閣僚レベルの訪日は極めて頻繁であることも強調した。

講演は現下の金融危機に対するフランスの対応や、日本とフランスの経済的な結び付きにも多くの時間を割いた。

フォール大使は「資本主義のあるべき姿について、日本とフランスは考え方が似ている。両国とも製造業を大切にしてきたし、投資についても長期的展望を持ち、3カ月後に回収に走るようなことはない。アン・グロサクソンとは異なる」と分析。経済が危機的局面にある今こそ、日本とフランスの協力関係を深めることが重要だとの認識を示した。

共同通信外信部(前パリ支局長)

金子 大

ハッサン・ガシユガヴィ イラン外務報道官



▼米国がコブシを開くべきだ

イランの外務報道官は、週1回テヘランで内外メディアを対象に定例会見を開くのが重要な仕事。会見での発言は至急電で世界に流れることも多い。02年から続く核開発問題では、欧米メディアが流す数々の疑惑を否定し続け、「ミスター・デニアル」と呼ばれた報道官もいる。

ハッサン・ガシユガヴィ外務報道官は外務省に入省後、カザフスタン大使、スウェーデン大使を歴任後に報道官に就任、将来を嘱望された外交官だ。訪日の背景には、イスラエルのガザ攻撃及び米国のオバマ政権発足が重なった時期に、現在、国連安全保障理事会理事国である日本に自らの立場を説明したいという意図があったのは間違いない。

日本は米欧とは違う独自の立場を

1・28(水) 記者会見 司会 脇祐三委員
通訳 稲見登弘(大使館) 出席 42人

取りうる国だ、とイランは見ている。

ガシユガヴィ氏は冒頭、国営放送、通信社を含むイランメディアの近年の発展ぶり、日本との友好関係を強調した。会場から①断交する米国のオバマ新政権との関係②ガザのハマス支援問題と対イスラエル関係③核問題での妥協、NPT追加議定書の批准の有無、という3点が質問された。オバマ演説について「まず米国が自らのこぶしを開き、中東の現実を直視すべきだ」と述べ、核問題でも「自国の平和利用の権利がじゅうりんされる状況は看過できない」と主張。イラン政府内部の公式見解から外れることのないそのなさを見せた。司会者の「弾道ミサイル開発は何のためか」という追及も、「核開発とは別物」とかわした。

イラン関係者の演説は、イスラムの歴史にも触れた哲学的内容が混じること多い。だが、そのなかで公式見解の微妙な変化に気づかされることもある。イランの動向に関心が高まり、ガシユガヴィ氏の言葉に耳を澄ます機会が今後も増えそうだ。

朝日新聞外交・国際グループ

(前テヘラン支局長) 安東 建

上岡 伸雄 学習院大学教授

1・29(木) シリーズ研究会「オバマのアメリカ② オバマ演説を読み解く」司会 高畑昭男委員 出席 75人

▼ 建国の理念、響く就任演説

「見出しどころがなく、感動的ではなかった」という声もあり、評価が二分したオバマ米大統領の就任演説について、「現実の厳しさを認識し真摯に取り組もうとしているから。浮ついたところがなく、誠実な気持ちで伝わる良い演説」とプラスに評価した。

オバマ演説の特徴は「アメリカという言葉の使い方」と指摘した。政治家は自国のことは「私たちの国」「この国」、呼びかける場合は「親愛なる市民のみなさん」と言うのが一般的だが、オバマは「アメリカ、後戻りはできない」という具合に、「アメリカ」を多用した。しかも「寛大なアメリカ」「寛大なアメリカ」などという場合には、不定冠詞のAをつけた。こ



うすること
で、ブッシュ政権の米国は違うかもしれないが、ケニア移民の父と

白人の母を持つ自分を受け入れる米国こそが「本来の、そして建国の理念が実現されたアメリカなのだ」と国民に思わせることに成功したのだという。

理念の体现である自分が当選したとき「アメリカは変わった」と完了形で演説したものの、本当に自由や平等が実現できるかどうかはこれからだ。独立を一方的に宣言したはいが英国との戦争に勝たねばならず、合衆国になるには南北戦争を経なければならなかった苦難の歴史に、我が身を重ねたのだろう。演説の最後は、建国の父、ジョージ・ワシントンが1776年12月、英国の傭兵であった独軍と闘うため厳寒のデラウェア川を渡る際、兵士に読むことを求めたトーマス・ペインの「アメリカン・クライシス」という文章の引用だった。

米国の政治の特徴は「理念先行型で、誰もが立ち戻れる建国の理念があること」という教授の説明に、どうしても日本の閉そくした政治状況と比較してしまう聴衆からため息も漏れた。

毎日新聞夕刊編集部 國枝すみれ

安倍 晋三 元首相

1・30(金) 昼食会 司会 宇治敏彦 副理事長 田崎史郎委員 出席 11人

▼ 首相と派閥支え「球拾い」強調

首相だった07年7月の参院選党首討論会以来の登場。「はるか昔のように感じていた」が第一声だった。

首相就任時から「政権選択は衆院選であり、参院選は中間評価と位置づけていた」と言う。だから、惨敗しても



「麻生首相の下で衆院選を迎えることは確定している」とまで言い切り、「党首を代えて流れを大きく変えられるのか。政策で勝負する気概を持つべき」と訴えた。

辞める意思はなかったと振り返った。健康状態の急激な悪化で退陣したが、首相臨時代理を置いて入院し、数週間で公務復帰を目指す道も探っていた、と明かした。内閣法の解釈上、それは難しいとの見解を内閣法制局が示したために「一日も早く辞めざるをえない」と覚悟した舞台裏も披露した。

サウジアラビア、イラク歴訪から帰国した翌日という疲れも見せず弁舌を振るった。退陣時とは打って変わった姿に、会場からは「顔色もよく、話しぶりも元氣。再登板の意欲は」との質問も飛ぶほどだった。

これには自分に言い聞かせるように「私自身の野心を持つことは自粛しなくてはならない。思考の外に押し出さねばならない」と打ち消して

見せた。当面の役回りとして自覚するのは「自民党が困難を乗り越えるためのボール拾いだ」。

第1は安倍政権の負の遺産である衆参ねじれの重荷や低支持率に苦闘する麻生太郎首相を支えぬこと。

日本経済新聞編集委員

清水真人

民主党担当 2次補正審議迷走

役者多すぎて記者泣かせ

▼穴井 雄治

(読売新聞社)

民主党らしきという言葉に、みなさんはどんなイメージを持たれるだろうか。

自民党ほど利権にまみれず、かつての社会党より現実的。民主党に好意的な人はそう答えるかもしれない。岡田克也、前原誠司両副代表ら若くして代表を務めたリーダーの顔を思い浮かべる人もいるだろう。

しかし、民主党取材に携わる中で、これが民主党だ、と痛感させられるのは、重要な決定について誰に取材しても結論が見えず、方針が迷走するときだ。定額給付金を盛り込んだ2008年度第2次補正予算案の審議日程をめぐる攻防もそうだった。

1面から2面に、格下げ

始まりは1月15日夕、参院担当記者からの「採決で合意してしまいましたが」という電話だった。

その2日前の13日、民主党は2次補正の衆院採決に反対して本会議を



2次補正予算案をめぐる開かれた両院協議会
くじ引きで議長を10年ぶりに参院側の民主党委員が引き当てた (1. 26) 読売新聞社提供

退席、審議拒否に入った。そのさなか、自民、民主両党の参院国会対策委員長が国会内で会談し、2次補正の審議日程で合意した、というのだ。「19日審議入り、23日採決」という2人のやり取りは、廊下にはまだはっきり聞こえてきたという。自民党側は会談に基づいて、記者団に「23日採決」と説明した。

当然、「2次補正、23日成立へ」という原稿を準備し始めた。1面に行く話だ。

ところが、民主党内から、この日程を否定する声が次々と上がった。2次補正の成立をあつさり認めれば、本会議退席までした衆院議員のメンツが立たないというわけだ。

結局、15日のうちに小沢代表らが集まり、「19日審議入り」だけ認めることで決着した。記者が確かに聞いた「23日採決」の合意はなかったこととなった。

19日という日付に深い意味はない。19日は月曜日。党内からは「曜日の復帰が決まっていれば、日曜日のテレビ番組で審議拒否と責められずに済む」という声が上がっており、世論の動向に弱い、いかにも民主党的な理由だった。

原稿は2面に格下げになり、見出しは「19日審議入り」に。政党間の約束を取り消す迷走ぶりに、記者の間からは「これが民主党だ」とため息が漏れた。

2次補正は27日、2日間に及ぶ両院協議会の末に成立した。国会は28日から正常化した。混乱が起きないか不安もあった。自民、民主両党の国会委員長が代表質問などの日程で合意したことに対し、民主党の西

岡武夫参院議院運営委員長が記者会見で「相談がない。納得できない」と批判したからだ。

担当記者からの電話を聞き、また迷走が始まるのかと思いつながら、いや、今度はさすがに大丈夫だろうと考え直した。

小沢代表の一言は：

民主党はなぜこうした体質なのか。自民党と違い、派閥・グループの力が弱いことや、無党派層の支持をあてにする議員が多いため世論に流されやすい、などと指摘されるが、本当のところはよく分からない。

福田前首相はかつて、小沢代表との党首討論で「誰と話をすれば信用できるのか教えていただきたい。私どもはかわいそうなくらい苦労してゐるんですよ」と訴えた。小沢氏の一言ですべて変わるのも事実だが、一昨年の大連立騒動で明らかのように、小沢氏がすべてを決められるわけでもない。

次期衆院選後、民主党政権らしきという言葉がマイナスイメージで語られないようにと祈りながら取材を続けている。

あない・ゆうじ 1991年入社 99年から政治部 2008年から野党キャップ

自動車担当 トヨタシヨック

減産、人員削減で、警電、連発

▼大塚 圭一郎

(共同通信社)

ホテルの大宴会場で開かれる華やかな新車発表会、近未来的なコンセプトカーが集まる自動車ショー、高性能マシンと日傘を持ったレースクイーンが魅せるF1シリーズ…。

前任の重工業研究会で再生紙の古紙配合率偽装、鋼材の試験データ捏造などの不祥事取材で疲弊していた私は昨年7月、まるで「楽園」に足を踏み入れるような錯覚を抱いて自動車産業記者会へ移った。大学時代にフランス人教師に教えられた「期待が大きいほど、失望もまた大きい」という戒めをすっかり忘れて。

「楽園」からの落下

9月に米証券リーマン・ブラザーズが破綻すると、金融危機は津波のように自動車業界を襲った。米国の販売不振が深刻化し、絶好調だったインドやロシアなど新興国の販売台数も急ブレーキが掛かり、「トヨタショック」の激震が走ったトヨタ自

動車をはじめ国内自動車大手の業績は一気に落ち込んだ。各社は急激に減産し、国内工場の非正規労働者の契約打ち切りが怒濤のように出てきた。

「人減らしはけしからん」と憤りを覚えたのもつかの間、記事を出しても次の減産、書いても次の人員削減と一向に歯止めがからない。自動車メーカー広報には「減産や人員削減は積極的に広報する話ではない」との意見もあり、毎日電話して「追加減産の話は?」「人員削減の計画は?」と取材せざるを得ない。警察署や消防へ警電（警戒電話）を繰り返した「支局時代に戻ったかのようだ」と他紙の記者と愚痴った。

12月5日午前7時、携帯電話がけたたましく鳴った。「やれやれ、他紙の抜かれた。減産か、人員削減か、それとも…」と電話に出ると、デスクがいつになくせわしない口調で言った。「ホンダがF1

から撤退すると外電が報じている。当たってほしい」。この瞬間、私の脳裏ではレース場で日傘を差したレースクイーンたちの姿が砕け散った。

そして12月15日にはスズキが世界ラリー選手権（WRC）からの休止を発表。私は11月初めにWRCの「ラリージャパン」取材のため北海道へ出張し、「ウォーレン、ウォーレン」とエンジン音を鳴り響かせて走る「スバル」ブランドの富士重工業やスズキの競技車両に興奮した。だが、スズキが退くとなると「もしやスバルも!」と嫌な予感がしたため、富士重工に直撃。すると「休止を含めてあらゆる選択肢を検討している」と回答があったので、スズキのWRC休止の記事に盛り込んだ。富士重工



撤退発表後、ホンダ本社に展示されたF1マシン「ご声援ありがとうございました」の立て札が寂しい…（2008年12月 筆者撮影）

は翌日にWRCからの撤退を発表し、記事の正確さが裏付けられたが、個人的には続けてほしかった。

いずこも同じ経費削減

期待した新車発表会も経費削減の波に押され、日産自動車は本社で開くなどつましやか。富士重工の新型小型車の発表会に「エビちゃん」こと蛸原友里さんが登場したのを除けばタレントの登場も皆無に等しく、撮影時に新車の隣ではほ笑むのは旧年式の経営トップばかり…。

しかし、「タレントを呼んでほしい」などとせいたくは言えない。三菱自動車は益子修社長ら役員のグリーン車利用をやめ、社屋の蛍光灯を間引き、来客へコーヒーや紅茶を出さず、文房具購入を凍結するなど、各社ともつめに火をともしような経費削減にいそしんでいるからだ。

私は三菱自動車の広報の方に「あまりにもケチると友達も、お客さんもなくすよ」とイヤミを言って昼食をごちそうしたが、その中身も1人1200円の定食なり。経費削減中の当方も五十歩百歩だが、これが「楽園」とは対照的な自動車担当記者の日常だ…。

おつか・けいいちろう 1997年入社
大阪支社経済部を経て本社経済部 08年
7月から自動車産業記者会所属

フィギュア王国

通年型3つに専用リンクも
夢追う親子を応援

■中村 彰宏

(中日新聞運動部)

昨年11月末に東京で開かれたフィギュアスケートグランプリ(GP)シリーズのNHK杯。女子は、浅田真央(中京大・中京高)が頂点に立ち、2位は鈴木明子(邦和スポーツランド)、中野友加里(プリンスホテル)が3位に続いた。表彰台を独占した日本勢3人は、いずれも名古屋のリンクで育った選手たち。試合後の記者会見で中野はこう語った。「やっぱりナゴヤは強い」。

多くのトップスケーターを世界へと送り出してきた愛知は、「フィギュア王国」と呼ばれる。ではその源流とは。1992年アルベールビル



NHK杯で優勝した浅田真央(中央)と2位の鈴木明子(左)、3位の中野友加里=08.11.29 国立代々木競技場

五輪で銀メダルを獲得した伊藤みどりさんの存在が大きい。愛知におけるフィギュアスケートの歴史はさきにさかのぼる。戦後間もなくして愛知スケート連盟が発足。旧満州(中国東北部)王者だった小塚光彦氏らが立ち上げ、息子の嗣彦氏は1968年グルノーブル五輪に出場した。伊藤さんをはじめ浅田、中野ら数々の名選手を育て上げた山田満知子コーチが名古屋で指導を始めたのも、ほぼ同時期。以来、選手が競技に打ち込める土壌は脈々と受け継がれてきた。

名古屋市周辺には現在、3つの通年型リンクがある。2年前には愛知県豊田市の中京大にフィギュア専用のリンクが完成した。中京大には今年2月中旬に一回り小さいサブリンクもオープン。これらは大学や付属高に所属する選手の練習だけでなく、地元クラブにも開放され、底辺拡大に一役買っている。全国的に経営難からリンクが閉鎖される中、選手たちが切磋琢磨できる最高の環境が整う。

指導者の情熱が土壌を培い、選手という実を結ぶ。その過程で親たちが一生懸命、水をやるというのも愛知の気質といえるだろう。数時間に及ぶ練習中、母親らがリンクサイドからじっと見守る光景は珍しくない。経済的負担の大きいスポーツ。1足15万円ほどするシューズは7、8カ月で交換が必要になり、衣装も業者に注文すれば10万円以上が当たり前。さらにクラブへの月謝、リンク使用料、大会の遠征費……。決して裕福な家庭ばかりではない。一般家庭には重い出費となる。いつかは同じリンクで滑っていたあの選手のように、親と一緒に頑張って同じ夢を追いかけるからこそ、負担

も苦にならないのだという。

「底辺の拡大がなければ、競技レベルの向上はない。才能の芽を摘むことがないように、もっと氷と身近に触れ合える場をつくっていかねば」。そう話すのは愛知スケート連盟の久野千嘉子フィギュア委員長。そこにフィギュア王国の源流がある。

バンクーバー五輪まであと1年。愛知を発信源とするフィギュア熱は、ますます高まっていくだろう。リンクでは未来の浅田真央が、今日も技を磨いている。

なかむら・あきひろ 1996年入社
大津支局 中日スポーツ報道部を経て
2005年から運動部

一口メモ 愛知のスケート選手

日本スケート連盟によると、2008年の愛知県の競技登録者数は約350人。東京、大阪、神奈川に次いで多い。愛知の選手では、伊藤みどり、安藤美姫、浅田真央が世界選手権で金メダルを獲得している。これは女子が目立っていたが、今季は小塚崇彦がGPファイナルで2位に入るなど最近男子も活躍。浅田、安藤らが所属する中京大のリンクは文科省の競技別強化拠点にも指定され、週末になると全国から選手が集まってくる。

MYBOOK MYPR

いまだに続く「敗戦国外交」——
「衆愚」の時代の新外交論

鈴木美勝（時事通信解説委員）

日本外交2012年が分岐点 国際政治のパラダイムが転換した中で日本外交には2つの難問がある。ひとつは、運命的に付きまとう米中「暗黙の同盟」への対応。直近の事例として、05年、日本が敗北を喫した安保理常任理事国入り問題を取り上げ、徹底取材を基に検証する。第2は、自立し得ない国家の根つきにある「米中コンプレックス」。親米派・金丸信、親中派・伊東正義が抱いていた対米・対中心理を描出し、国民の多くが同様に引きずってきた対外心理を考える。この視点を踏まえ、ネットや画像を軸にグローバル規模に形成された「衆愚」の時代の外交論を展開。日本が「流浪の国」に堕するか否かの分岐点は2012年にあると説く。（草思社 1,995円）

日本の国家戦略 アメリカの21世紀国家戦略をめぐって 高畑昭男

（産経新聞編集委員兼論説委員）

日本戦略構築のあり方を探求 90年代末に書かれた超党派の国家戦略報告。それが同時テロを「予期」して

いたと知ってビックリしたのが勉強を始めたきっかけです。同盟のほころび、有志連合、国際テロ等々、ブッシュ外交の裏シナリオ？とも見える未来想定。それでも世界秩序構築をめざす強烈な国家意志。国益の階層化。そんな「帝国の深謀」を日本も少しは見習えたらと思いつきながら書きました。直接引用ばかりで気がひけますが、ささやかな資料にでもなればと思っております。

（駿河台出版社 2,310円）

ゾルゲ事件の謎を解く 国際諜報団の内幕

白井久也（朝日新聞出身）

ゾルゲ事件研究の入門書 日本の特高警察が戦前、摘発したゾルゲ事件は、翻訳物も含めると、200冊前後出版されている。だが、ゾルゲ事件について総合的に捉えた本が見当たらない。ならば、ゾルゲ事件とは何なのか？私見によれば、過ぎ去った20世紀の象徴である「世界戦争」と「革命」と「植民地解放」のすべてに、深い関わりを持った国際スパイ事件であった。ゾルゲ事件研究の過去と現在を集成した本書は、我々が今生きている21世紀の現在と

将来を考えるうえで、色々な示唆を与えてくれるに違いない。15年前に出した『未完のゾルゲ事件』（恒文社）の改訂増補版。

（社会評論社 3,885円）

威風堂々の指導者たち 昭和人物史に学ぶ 芳賀 綏

戦後史キーマンの全人物像 素顔の吉田茂はシャイな人、豪放な石橋湛山は池田勇人の「酒豪」を買って蔵相にした、芦田修正の法学博士芦田均は浪曲に感泣する純な人、西尾末廣はダンスと洋画批評、河上丈太郎は野球解説……。意外史もからませて戦後史のキーマンの全人物を描き直し、日本国の課題の再検討も試みた。「骨太の政治家の骨太評伝」「本物」を考えさせる知的刺激の書」と一識者の評を得た小著が、求心力不在の漂流日本に目からウロコのヒントになれば……とも念願。巻中23人を描いた拙筆の似顔絵はお笑い草に。

（清流出版 1,890円）

社長の仕事作法 伸びる社員をつくる経営者の発想

長谷川洋三（日本経済新聞出身）

大不況時代に健闘する社長たち「成功するには、地道な努力とコツコツと積み上げていく忍耐力が必要

です」。――「福島一のラーメン店を目指す」という目標を「東北」「全国一」へと進化させてきた幸楽苑の社長の言葉だ。日本企業は多かれ少なかれこの「積み上げ」の原点を持っている。サブプライムローン問題の本質はある意味で、「地道な努力」を怠ったツケでもある。大不況時代でも健闘している社長たちにインタビュー。共通する仕事作法は「人を大事にする経営」と「粘り強い経営」だった。おもしろく読めるビジネス書であり、産業史の証言でもある。

（講談社＋α文庫 720円）

派閥の終焉と日本の針路 小泉政治の遺産 本澤二郎

小泉政治を徹底総括 「小泉チルドレン」が出版社の依頼でしたが、ついでに小泉政治を徹底して総括することになりました。郵政民営化の隠された背景やらワシントンが操作した市場原理主義、ブッシュ戦争への加担などなど。完璧なマスコミ対策も。80余人のチルドレンの当落が国民の小泉採点になります。また本来、中曽根バブル経済の崩壊で沈没したはずの自民党も、公明党を抱き込むという延命装置でここまできました。が、それも時間の問題でしかないでしょう。（長崎出版 1,890円）

あの朝の一本の白い旗 カンバミチコの名を10円玉で社へ



志甫 溥

1960年6月15日とだけ薄緑色の表紙に記された取材手帳が出てきた。手帳を常時携帯するようになり、そして持ち歩かなくなつて数十年が過ぎた。

まだ取材記者でもなかったその夜のことは、年ごとに鮮明さが薄れ茶色味をおびていく古い写真さながらの不連続なシーンの記憶でしかなかったし、何も書かず、何一つ直接報じることもなかった一夜ではあったが、往事茫々なのにいつまでも自分の中に残っているセピア写真。

私は25歳、KRT(現TBS)に入つて3年目で、報道局に所属し、主としてフィルムによるドキュメンタリー番組のアシスタントを務めていた。

ちょうどそのときは「世界建設の旅」というカメラマンひとりが各地

をまわつて撮影してきた建造物の16ミリラッシュフィルム(当時の海外取材番組での私の役割は、全く海外取材に行かず映し出される場所やモノについて専門家などの話を聞きま

わり関連書物をあさつて、フィルム編集・コメント書きを手伝うというものだった。戦後はじめてのチベットの紀行番組も作つたが、戦後の参考書の著者は、どなたもチベットを見たことがなかった)を見統けていた。

編集室の小部屋の壁に映し出されるダムや高速道路や各国のニュータウンの映像を見るのが私の日々だった。100フィートで3分のフィルムを2000尺見るときまづ疲れた。

疲れると大部屋に出ていつて、ニュース番組で、車に閉じ込められて無表情に全学連や労組の大部屋をすかしみているハガチの顔や「キシヲオセ キシヲオセ」とはてしな

く続く請願デモの映像を見たが、私はデモに加わることもなく、ニュースが終わるとアスワンハイダムの小さな画面にもどつていつた。

そのころ、セ・リーグは中日、巨人、大洋の順で打率は長島、桑田、飯田。パ・リーグは南海、大毎、阪急で榎本、田宮、関根の順。同日に両方の好試合があれば、全国紙スポーツ欄の右側半分は六大学リーグ、左にプロ野球だった。

15日の夕方、暗い小部屋から呼び出された。ニュース班が手一杯のため、国会南通用門の取材チームに弁当を届けることになる。南通から国会突入を全学連主流派がはかるという情報をもとに(あとでそう聞いた)、KRTテレビのささやかな取材陣は全部その場所に集まつていたから弁当はそこで配ればよかった。弁当を届けた私は、取材用ジープ

にとりつけられたクレーンの上から、すでに南通前道路をうめつくした学生たちを眺めたりしていた。夕刻以降広い場所で16ミリフィルムの撮影をするときは携帯用照明では暗いので、フライヤーを焚くのだが、白い火花が強く散ると、学生たちの罵声が飛んだ。緊張感がつのる雰囲気の時。

なぜ用事が済んだのに小部屋に戻らずにいたのか覚えていないが、突然私は、学生たちと一緒に国会構内に入っていた。それまで私は国会に入つたことはなかった。薄暗がりのなかでまわりの学生たちも、待ち構えていたはずの機動隊もほとんど見えず、ただ完全な静寂が支配する一瞬だった。芥川の「雀色時の霧の中」(芋粥)というのはこのことかと思つたりした。

あまりの静寂になにかのワナではないかという素朴なおそれをふとものつたのか、私は学生の間をぬって静かに構外に出た。

午後7時すぎからおびき寄せられた形のデモ隊と十分待った機動隊の衝突、放水と投石をともなうが、反復された激しい騒乱の場になるが、ラジオ所属の2人の同期生が、デンスケで機動隊に対峙する学生の録音取材をはじめた10時5分、「かかれ」

の号令で襲いかかった機動隊に頭を割られて昏倒したという。他にも2人が傷つき、社は翌日警察側に抗議した。

女子学生が死んだ。女子学生の身元をつかむように命じられ、取材手帳も鉛筆も持たないまま、私は警察側の放水で濡れになって殺気だつカメラマンと、遺体が収容された飯田橋の警察病院に向かった。

病院玄関ロビーに集まった取材者たちが、横の事務局で電話を借りると、不機嫌な事務員に電話代10円を請求される。血を流して倒れている女子学生(それが死者ではないか?)の焼き付けたばかりの写真を、まわりに見せながら「ひどいねえ」と言っていた、人がよさそうな中年の記者にポケットにあった何枚かの10円玉を取り上げられた。最後の一枚で、10円玉・取材手帳・ボールペンをオートバイで届けてほしいと社に頼むが、その後も死者の身元は玄関一杯に座り込んだ記者の誰もわからないまま時間が過ぎる。

時折、立ち上がって地下の霊安室の扉の前でたたずんだりするが、またロビーに座り込んで何かを待ち続ける。激しい言い争いがおこる。いつの間にか入っていた学生たちがタ

スキをかけた野党議員らしい男たちをなじり、男たちが力のない大声で何か言い返す。そのうち同行のカメラマンとの口論になった男たちは何も得られぬまま出て行き、動きの成り行きをみていた取材者たちは、また座って待つ。

女子学生がひとり死んで、霊安室に遺体が安置されていることは間違いない。それは誰なのか、死因は?を知るために「何か」を待ち続けて夜を深めていく。

そのころテレビはラジオを追い抜いて伸びていた。毎晩のようにゴールデンタイムにはアメリカのテレビ映画シリーズが放送されていた。いつも会社泊まりこんでいたのに、どうして、テレビ映画の細かい記憶があるのだろう。通常午前中に長い放送休止時間があり、夜11時半には「お休みの前に」というフィルムで終わっていた。ナイターは巨人戦だけでなく、夜8時から(7時から)は子ども・家族向けで民放のドル箱「各局がナイター中継をしていて、曜日よりって1晩に2、3試合同時に放送されていたようだ。

「何か」がなんだったか残念ながら記憶にない。私は10円玉を手になら上がり社にカンパミチコの名前を伝えるため電話をかけた。すぐあとの『週刊読売』誌に掲載された児島

襄の記録によると「東大農学部古島教授が身元を確認して、樺美智子の名前がラジオ、テレビで伝えられたのは、日づけが16日にかわった午前2時すぎであった」。

KRTテレビはその夜11時25分から午前1時まで続けた「死者を出した国会デモ」という特別報道番組を放送している。和歌森太郎、大浜信泉、池松文雄と鈴木茂夫報道部長が話した番組に私は全く関与していない。私が社に伝えた唯一の情報は、まだその番組の中には出ない。しかし放送は少なくとも私の電話で「カンパミチコ」の名前のスーパースペシャル速報を出すまで続けられていたのだ。

樺美智子の両親が飯田橋警察病院に駆け込んでこられたのは午前2時45分だったという。樺俊雄中央大学教授夫妻を中心に取材者たちの渦が玄関ロビーから霊安室に向かって少しずつ移動していく。

ライトに照らし出されフラッシュを浴びながらゆっくり動かなかたまりの中で、押されてよろけながら進む光子夫人の靴の片方が脱げかけた光景を目に焼き付けた私は、どこにいたのだろう。取材手帳の中の文字は樺教授の会見のメモだけ。

「突然なので考えがまとまらない／警官隊にいきどおり／まさか自分の

子どもだとは思わなかった。真剣に思い詰めていた様子／今朝はいつもと同じ／男二人が上で末っ子」

そのころ民間放送のテレビはまだフィルムと静止画とアナブリスの朝・昼・夕・夜の定時ニュース、もうひと枠は資本関係が深い新聞社が編集済みフィルムやアナ原稿一切を持ち込んで局は放送するだけの10分程度の「**新聞」ニュースだった。通常全国紙は朝刊18頁、夕刊が12頁。

その場所での役割を終えてアプシンベル神殿の画を見る小部屋に戻るため病院から明けかかる外に出た私は、濡れそぼったよれの学生小集団がうなだれ身を寄せ合うように歩くのに出会った。1人が白い旗をかきついていた。その旗は、より過激により抑圧される次の10年のどこに進んでいったのだろうか。

有力新聞7社は17日朝刊に「共同宣言」を載せ民間放送連盟も同様の声明を出し19日に新安保は自然成立しアイクは来日を取りやめ岸首相は退陣する。

しば・ひろし会員 1935年生まれ 58年ラジオ東京(現TBS)入社 報道番組AD 政治取材記者を経て テレビ編成課長 人事部長 報道局長 常務取締役 代表取締役 会長 相談役などを歴任 現在 同社社長室顧問

私が会った オードリー・ヘプバーン

リレー③

オードリー・ヘプバーンが初来日したのは、1983年3月27日。4月13日にNHKホールで開催される朝日新聞社主催の「ジバンシイ30年 華麗なモードの世界」と題したファッションショーとシンポジウムに特別出演するためだった。

「ハリウッドの映画会社から次の主演女優ミス・ヘプバーンをパリへ連れていくので、衣装を頼みたいと電話があり、私はびっくりキャサリン・ヘプバーンだと思って引き受けました。ところが、実際に現れたのは、目が大きくてひょろりとした新人のオードリーだったので、慌てました」

ユベール・ド・ジバンシイは、二人の最初の出会いをこう語る



が、オードリーの明るい機知に富んだ人柄にたちまち魅了され、「麗しのサブリナ」「昼下がりの情事」「ティファニーで朝食を」など、その後30年余りオードリーのほとんどの映画衣装を手がけた。そんな間柄のジバンシイの画期的なショーが日本で開催されるとき、オードリーは友情出演を快諾したが、一つ条件があった。13歳になる次男のルカ君と一緒にイースターの休日を日本で楽し

「京都の休日」で見せた
毅然とした母の素顔

みたいと。その最初の3日間が、京都旅行だった。

来日の翌朝、担当記者の私がオードリーと待ち合わせたのは、東京駅の新幹線ホーム。発車30分前にホームにあがると、ジーンズにシャツブラウス姿のオードリーが、赤帽がずらりと並べた荷物を数えていた。大

小合計11個。なんとそれが、全部ルイ・ヴィトンのモノグラム。スターの旅のスタイルとはこういうものなのかと、私は内心感嘆した。

京都での2日目、ハプニングが起きた。あらかじめ許可を申請していた修学院離宮に着くと、ルカ君を見た係員が、「子どもは、入場できません!」。驚いたオードリーが、「ルカは、身長が日本人の大人ぐらいあるし、決していたずらはさせませんから」と懇願

堀江瑠璃子

で車で待たせておくなんて、とんでもない。私も見せていただかなくて結構!」と毅然と言いつつ、あわてる周囲を尻目に車に戻り、心配顔のルカ君の肩を抱いた。

春雨の京都御所散策、老舗呉服店でのゆかた遊び、日本料理店での舞子さんのお酌。オードリーはどんなときにもほにかみ屋のルカ君を連れ、母親らしい気配りとやさしい笑

顔を絶やさなかった。しかし、そんなオードリーが、さすが大スターという風格を見せる場面が何回もあった。それは、街角で人びとに囲まれてサインを求められたり、カメラのレンズを意識したりするときだった。不思議なことに、一瞬にして表情が輝き、華やかなオーラを発散する。

「ジバンシイ30年 華麗なモードの世界」本番の夜オードリーは、フィナーレの舞台にジバンシイのシンプルで優雅な緋色のイヴニング姿で登場。「ユベールの30年、天才の30年、友情の30年」で始まるジバンシイに捧げる自作の詩を、たおやかにうたいあげた。53歳という年齢ながら、あの「ローマの休日」を彷彿とさせる妖精のような雰囲気なたたえ、2千人の観衆を魅了した。



ほりえ・るりこ
会員（元朝日新聞編集委員）

写真上「白地に紺がやっぱりシンプルですてき」と鏡の中のゆかた姿にご満悦のオードリー（1983年3月 朝日新聞社撮影）

■会議報告■ 第298回会報委員会

(1・13 小会議室)

12月号、1月号について意見交換した後、2月号の編集を協議した。

出席 住田委員長、石田、竹居、枇杷田、見市、渡辺、國府の各委員。
第377回会員資格委員会

(1・14 小会議室)

2月1日付の会員入退会を審査し、理事会に答申した。

出席 石川、布施、大橋、近藤、坂本、

若松、川嶋の各委員。 第383回企画委員会

(1・15 宴会場)

司会を担当した委員が行事報告をした後、今後のゲスト候補などを協議した。

出席 船橋委員長、宮田(謙)、小此木、倉重、中井(良)、高畑、宮田(一)、菅沼、川戸、井田、和田、広瀬、高橋、長沢、藤井の各委員。

第180回施設運営委員会

(1・20 小会議室)

11月から12月までのアラスカ売上と

貸室利用状況について事務局から報告した。

出席 神谷委員長、高橋、畑野、加藤、阿部、佐藤、鈴木、渡部の各委員。

第465回理事会(書面)

左記の役員の一部交代を承認した。

△監事▽

熊本日新聞社

(新) 松永幹夫 東京支社長

(旧) 中西雄一

感謝多謝

第36回予想アンケートの結果は残念ながら満点はならず、最高得点は8点で8人が表彰された。ところで、このアンケートの言い出しっぺをご存じだろうか▼1月2日に亡くなった堀田一郎会員(中日元副社長)が企画委員長のとときの発案なのだ。クラブがまだ帝国ホテルの東館に仮住まいのころ。堀田さんは東京新聞の編集局長だった。当時の企画委員会で最初の10問がつくられた(36年前の質問はクラブのHPに)。その堀田さんが2回目で最高得点を取り、会報に「アンケート」生みの親の弁を書いている▼新年会の酒のサカナ程度のものだが、10問自体が、日本記者クラブの、新年を平和でよい年

と願う善意、事件に立ち向かう挑戦の意欲、幅の広いヤジ馬根性、チラツと光る専門的な眼力——などのシンボルとして2社面1段くらいのニュースになるとうれしい、と▼さらにこんな期待も。①満点が出ること②応募が全会員に広がること③クラブゲストのみなさんも投票に参加すること④米英ソなど外国の記者クラブと共通のアンケートで予測し合うこと。①だけはすでに満点獲得者が60人出て実現している。このところ一番細かいのは会員の応募数の減少だが、永井梓会員の「よみうり寸評」が、例年、出題と結果を紹介してくれているので、一般の関心は高く事務局への問い合わせは増える一方だ。来年からは、会員ももっと酒のサカナ

ナを楽しんでもらいたいのものだ▼1月には日比野和幸さん(元朝日)、吉沢正也さん(元読売)も去られた。日比野さんの洒落な文章が好きだった。吉沢さんは囲碁の会を長いこと世話してくれた。昨年11月、クラブ賞を受賞した筑紫哲也さんが死去したあと訃報が続いた▼朝日外報部で活躍した辻豊さん、写真回廊執筆者・俵萌子さん(肩の力が見事に抜けた文が魅力だった)。そして12月には元毎日の中東記者・安延久夫さん、企画委員経験者でテレビ東京元社長の一木豊さんが病没した。このクラブの屋台骨は各社が支えているが、クラブを前進させ、育てる力は、こうした会員個人の参加の仕方の集積なのだとつくづく思う。(玄)

■同盟学寮生・古野奨学生を募集しています

(財) 同盟育成会(理事長・山内豊彦前共同通信社長)では、今年も同盟学寮生と古野奨学生を募集しています。「地方のクラブ会員あるいは知人のお子さんの中に、希望者がいたら応募してほしい」と井口智彦事務局長は語っています。

【同盟学寮】 働きながら勉学する学生(アルバイトも可)が対象で2年以上の在寮が見込めることが必要です。学寮は都営地下鉄新宿線の曙橋から徒歩約5分。寮費は月額3万円(朝夕2食付き)。申し込みは3月6日(金)まで。

【古野奨学生】 対象は今年4月に大学、大学院、短大、高校に入学予定または在学中の学生で、奨学金の貸与が必要と認められる者。貸与月額は大学生2万5000円、高校生2万円。申し込みは4月1日(水)から30日(木)まで。

詳細は同会のホームページ
(<http://www.doumei-ikuseikai.or.jp/>)を閲覧ください。
電話での問い合わせは03-3593-2055まで。

2008年(第36回) 予想アンケート結果 (2008年1月9日実施 応募総数 272)

質問	正解	正解率(%)
①12月31日現在、わが国の首相は誰か	麻生太郎	11.4
②民主党中心の政権が	生まれない	72.3
③拉致問題が進展し、日朝国交正常化が実現	しない	93.7
④新しい日銀総裁は誰か	白川方明	0
⑤原油価格(米国産WTI期近物)が08年中に1バレル=120ドルを超えることが *7月11日、史上最高値147.27ドルを記録	ある	28.8
⑥米大統領選でヒラリー・クリントン上院議員が当選	しない	51.7
⑦アメリカがイランを軍事攻撃	しない	95.9
⑧青色発光ダイオード開発者の中村修二カリフォルニア大教授がノーベル賞を受賞 *南部陽一郎氏、益川敏英氏、小林誠氏が物理学賞、下村脩氏が化学賞を受賞	しない	79.7
⑨2年連続で国内最高気温が更新 *08年の最高気温は39.0℃(7月26日岐阜県多治見市、同27日大分県豊後大野市)。07年8月16日、埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市で40.9℃を記録し、74年ぶりに最高気温を更新した。	されない	41.0
⑩北京五輪の野球で星野ジャパンが金メダルを獲得 *アメリカに破れ4位。金メダルは韓国	しない	45.0



出席した7人が記念撮影—左から阿部、入江、川畑、斉藤、鈴木、永江、中島の各会員

アンケート最高得点は8点

最高得点者(敬称略 50音順)

阿部 穆(産経新聞OB)
*03年の満点に続き2度目
入江 顯治(日刊工業新聞OB)
川畑 伯(東京タイムズOB)
斉藤 克夫(日本プレスセンター管理部長)
鈴木 隆敏(産経新聞OB)
*1982年の9点に続き2度目
永江 正文(時事通信OB)
中島 宏(共同通信OB)
中原 博(電通執行役員) *当日欠席

記名問題の回答内訳(人)

【首相予想】	【日銀総裁】
福田康夫 157	武藤敏郎 184
麻生太郎 31	竹中平蔵 14
小沢一郎 37	福井俊彦(留任) 9
岡田克也 25	山口泰 8
谷垣禎一 5	榊原英資 7
鳩山由紀夫 5	植田和男 5
菅直人 4	黒田東彦 3
小泉純一郎 2	渡辺博史 3
前原誠司 2	藤原作弥 3
伊吹文明 1	空席 3
小池百合子 1	岩田一政 2
与謝野馨 1	安斎隆 2
	ほか

新年恒例の会員懇親会が、1月16日(金)午後1時から開催された。滝鼻理事長が「経済もメディアをめぐる状況も大変厳しいが、危機の時代こそジャーナリズムの出番だ。ニュースを発信する場として、また記者の研さんの場としてクラブ活動をさらに充実していきたい」とあいさつした。参加者数は263人。

昨年の予想アンケートは平均正解率こそ51・9%と例年並みだったが、過去36回で2度目の「正解者ゼロ」の超難問も。「白川日銀総裁」誕生は誰も当てられなかった。ねじれ国会に振り回された人事の結果だけに、お手上げは当然と言えば当然。ほかにも福田首相の退陣、原油の(天井なしにも見えた)高騰:と昨年1月投票後の展開は大方の想定をはるかに超え、3年続けて満点者ナシという結果になった。

その中で、左記の8会員が最高得点の8点を獲得。船橋企画委員長から表彰状と副賞(クラブのボールペン)が贈られた。

阿部穆、鈴木隆敏の両会員は2度目の最高得点獲得。代表して阿部会員が、「混迷する世の中なので首相は、みぞうゆうの人を選びました」とユーモアたっぷりに喜びを語った。



小野寺・岩手日報、三石・信濃毎日、宇佐美・北海道、土山・西日本、
星野・新潟日報、上地・沖縄タイムス、土佐・山陽の各支社長さん
(左から)



「正解者ゼロ？ 経済部出身はどうしたんだ」と
あいさつした滝鼻理事長（左・読売）に「ボク
も経済部出身なんです」と菊池会員（毎日）

福引1等 ベネチアン ペアウィングラス（産経新聞提供）
宇治敏彦副理事長（写真左）中日新聞相談役に



住田会報委員長（右・産経）と
一緒に



「3等当たり間違いないでしょ？」
と斎藤資格委員長（右・日経）



石田会報委員（左・NTV）
と田崎企画委員（時事）

そのほかの当選者は下記の方々です。

- 2等＝南部鉄ごはん釜（岩手日報提供）
中島善範会員（朝日新聞OB）
同＝デジタル・フォトフレーム（日本サ
ムソン提供） 別府秀喜会員（電通
PR常務取締役）
- 3等＝ハンドバッグ（毎日新聞提供） 斎
藤史郎会員（日本経済新聞専務取締
役）
同＝真珠付きタイピン（QUICK提
供） 金田知会員（朝日放送OB）
同＝帝国ホテル・ペアディナー券（帝国
ホテル提供） 江口峻会員（「ビジ
ネスアイ」日本工業新聞新社長）

計79社から景品を寄贈していただきました。
提供社リストは18ページに。



福引き番号が呼ばれるときは少レドキドキー左から伊奈
会員（日経）、今井副理事長（NHK）、小田会員（読売）



腰を落ち着けて話し込む会員も

情報発信

クラブ施設では会員による各種の会合が行われています。企業や大使館などの賛助会員も記者発表の場としてクラブを利用しています。

■「日本管打楽器コンクール」記者発表

日本音楽教育文化振興会（赤松憲樹理事長）が主催する音楽コンクールが、2010年大会から世界規模のコンクールを目指して運営を改革すると発表した。1984年に始まったこのコンクールは、これまで若手の登竜門として高い評価を受けてきている。（1. 8 10階ホール）

■ガザの平和を求める記者発表

Muslim Peace Foundation Japan（セン・カーン代表）が会見し、イスラエルのガザ攻撃停止を訴えた。（1. 9 小会議室）

■寺島実郎氏講演

未来をひらく日本委員会（<http://www.nihoniinkai.com/> 尾畑雅美代表）の主催で、寺島実郎・日本総研会会長が「世界転換期 こう生き抜く」のテーマで講演した。（1. 15 10階ホール）

■尾崎・高知県知事講演

首都圏在住の高知県出身者のネットワーク「土佐みずき会」で、尾崎正直知事が講演した。（1. 15 宴会場）

■みちのく懇話会

東京青森県人会（<http://www3.ocn.ne.jp/~a-kenjin/>）がプロスキーヤーの三浦雄一郎氏の講演と懇親会を行った。懇親会には地元選出の大島理森・自民党国対委員長、田名部匡省参院議員も出席。（1. 19 宴会場、10階ホール）

■Yomiuri New Year Party

読売新聞が、各国大使、報道担当官や在京特派員を招き懇親会を行った。招待者代表としてヨアヒム・デア独大使、我孫子和夫AP通信北東アジア総支配人があいさつした。（1. 21 10階ホール）

■新潟県出身美術作家「新春を祝う会」

新潟日報の主催で、県出身の美術作家の懇親会を行った。日本画の大矢紀氏はじめ約30人の作家、大手百貨店の担当者らが出席した。（1. 23 レストラン・アラスカ）

■水経セミナー、水産政策推進の集い

水産振興や食品の安全に関する水産経済新聞社主催のセミナー。水産庁課長らによる講演や水産物流に関するパネルディスカッションが行われた。懇親会には石破茂農水相、森英介法相、浜田靖一防衛相も出席した。（1. 27 宴会場、10階ホール）

■指定都市 地方分権シンポジウム

17政令市の市長でつくる指定都市市長会（<http://www.siteitosi.jp/>）がシンポジウムを開催した。市長会の活動報告、西尾勝・東京市政調査会理事長の講演の後、石原信雄・元内閣官房副長官らによるパネルディスカッションを行った。（1. 29 10階ホール）

ご提供ありがとうございました

以下の会員社から新年会員懇親会の「福引」用景品をご寄贈いただきました。お礼申し上げます。

朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 日本経済新聞社 産経新聞社 ジャパンタイムズ 報知新聞社 日刊スポーツ新聞社 日本工業新聞社 スポーツニッポン新聞社 東京ニュース通信社 日本農業新聞 共同通信社 時事通信社 北海道新聞社 岩手日報社 河北新報社 秋田魁新報社 静岡新聞社 信濃毎日新聞社 中日新聞社 新潟日報社 北日本新聞社 京都新聞社 神戸新聞社 山陽新聞社 中国新聞社 徳島新聞社 四国新聞社 愛媛新聞社 高知新聞社 西日本新聞社 長崎新聞社 熊本日日新聞社 沖縄タイムス社 ブルームバーグ・ニュース QUICK 日本新聞協会 日本プレスセンター 日本放送協会 東京放送 文化放送 日本テレビ放送網 ニッポン放送 テレビ朝日 フジテレビジョン テレビ東京 エフエム東京 J-WAVE 毎日放送 青森テレビ 静岡放送 東海ラジオ放送 広島テレビ放送 広島ホームテレビ 四国放送 RKB毎日放送 大分放送 テレビ朝日映像 日経映像 日テレアックスオン テレビマンユニオン 日本民間放送連盟 アラスカ サントリー キヤノン スカパー JSAT 中部電力 帝国ホテル JR東海 東京機械製作所 ナショナルビジュアル 日経リサーチ 日本ABC協会 日本医師会 日本サムスン 日本新聞インキ 日本中央競馬会 日本放送出版協会（会員名簿順）

新しいOB会員

駐日事務所を2月にオープン

長嶺義宣（ながみねよしのぶ）

赤十字国際委員会（ICRC）

駐日事務所所長



「日本とパートナーシップを組み、人道支援活動での協力関係を深めたい」と駐日事務所開設の意図を語る。経済発展によって東アジアの地政学的なウエートが相対的に増えたが、不安定要因も抱えており、それを踏まえての決定のようだ。

ICRCの活動は主に2つ。1つは紛争地域での医療・食料などの人道支援。もう1つは紛争犠牲者の保護。国際人道法の「ジュネーブ条約」に基づくもので、戦争捕虜や拘束された民間人が対象。そこが献血や医療、自然災害での被害者を対象として救援活動を行う「赤十字社」との違いだ。

「戦争や紛争にもルールがあり、それを守らせるようにするのがわれわれの使命」と強調する。今回のイスラエルのガザ攻撃以来、ガザ常駐のスタッフが医療活動などを行っている。ケレンベルガー総裁も現地に入り、救急関係者や救護施設の保護を訴えた。ハマスのロケット攻撃が続いた、イスラエル南部の町も訪れた。

どんなところでも、中立・公平の精神に基づいた活動をとっていることが紛争当事者に理解されており、それが組織の強みだ、という。

父親の仕事の関係で、スイスで小学校から大学までを過ごした。メロは英語でとる方が楽なようだ。コンゴやアフガン・カブールでの活動経験がある。31歳。昨年12月から特別賛助会員。（石川）

■放送人政治懇話会

以下のようにゲストを招いた。山岡賢次・民主党国対委員長（1. 21）、大島理森・自民党国対委員長（1. 28）

バー、レストラン、宴会

予約電話 和食3503-2723 洋食3503-2766

吉 富
カクテル

深い色合いの「黒真珠」

2月のカクテルは「ブラック・パール」です。甘いコーヒークュールの風味が、ブランデーの豊かな香りを引き立てます。黒真珠の輝きを手には大人の会話をお楽しみください。



和 食

春子鯛／すき焼き

ふたつのコースをお楽しみください

今月は走りの春子鯛（かすがだい）や春野菜などを使ったコースです。季節感を大切にしました。また、国産牛を使ったすき焼きコースも始めました。寒い日にはやはり温かい鍋がうれしいですね。（青木尚篤）

◆如月懷石膳（2月27日まで）

突き出し・春野菜酢味噌和え、前菜・春子鯛手まり寿司、焼・清まし仕立て、刺身・春子鯛など3点花かご盛り、焼き物・鰯ケンチン焼き、炊き合わせ・若竹煮、揚げ物・鰯から揚げ、食事・温うどん、水菓子・季節の果物（5,250円）

◆牛のすき焼き膳（3月6日まで）

小鉢3種盛り、風呂吹き大根の柚味噌掛け、すき焼き鍋、うどん、シャーベット（3,780円）

洋 食

鯛づくしコース（3月27日まで）

旬を迎える鯛を洋風に仕上げました。メーは鯛とアサリの白ワイン蒸し。春野菜が彩りと香りを添えてくれます。昼、夜ともご利用いただけます。（シェフ：黒須修一）

鯛のマリネと春野菜のサラダ グリーンピースのクリームスープ 真鯛とアサリのアクアパッツァ風 イチゴのメルバ（2,890円）

<訃報>

安延久夫会員（毎日新聞出身、84歳）が12月18日に、一木豊会員（テレビ東京顧問・元社長、74歳）が肝不全のため12月23日に、吉沢正也会員（読売新聞出身、95歳）が1月1日に、堀田一郎会員（元中日新聞副社長、83歳）が1月2日すい臓ガンのために、日比野和幸会員（朝日新聞出身、83歳）が1月5日心筋梗塞のために、田島良雄会員（共同通信出身、76歳）が1月29日に死去されました。皆さんのご冥福をお祈りいたします。

クラブの電話 ダイヤルイン

和食レストラン（9階）	会員事務
3503-2723	3503-2725
洋食レストラン（10階）	経 理
3503-2766	3503-2728
貸室予約、宴会打ち合わせ	
3503-2724	
受 付	会見申し込みアドレス
3503-2721	kaiken@jnpc.or.jp
クラブ行事への申し込み	ホームページアドレス
3503-2722	http://www.jnpc.or.jp

会報委員会

委員長＝住田良能

委 員＝石田昭彦 上村幸治 國府一郎 竹居照芳
枇杷田裕 見市 元 村澤繁夫 渡辺みどり

連 絡＝長谷川和子 本庄五月

（電 話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271）

2009年度クラブ賞に5候補が推薦

今年の「日本記者クラブ賞」の候補者として5人が推薦されました。受賞者は推薦委員会（3/5）、選考委員会（4/9）での審議を経て、4月20日の理事会で決定します。贈賞式は5月29日に開催される通常総会で行われます。

ビル玄関テラス 雨の日も安心です

クラブへ来た時、玄関前のテラスで「あれ？」と思われたのではないのでしょうか。靴底の感触がザラッとしていたはず。雨が降ると滑りやすかった御影石の床に、プレスセンタービルが滑り止め工事を1月末に行いました。高温の炎を当て、石の表面を“爆発”させて表面に凹凸を作り出すという工法だったそうです。これで雨の日も安心です。

<法人会員代表変更>

秋田魁新報社 新 小笠原直樹 代表取締役社長
旧 佐藤暢男

会員の著書

A New Development Model for Japan 小島明会員

寄贈書

世界の偉人 あの人の「最期」 前坂俊之会員
直江兼続ガイドブック

<会員現況> 法人会員 144社 基本会員 802人
個人会員 1585人 法人・個人賛助会員 68社 174人
特別賛助会員 78人 名誉・功労会員 9人
計 212社 2,648人

H P <http://www.jnpc.or.jp/>

「会見速記録」：1月の新規掲載

●菅直人民主党代表代行「総理を決めるのが国会の第一の機能」（08. 12. 15）●平野英治トヨタファイナンシャルサービス取締役「金融危機をどう考えるか」（08. 11. 11）

今後の行事予定（2/3現在）

- 2. 16（月）15：00～17：00（10階ホール）
研究会「米新政権と中東情勢」池田明史・東洋英和女学院大学教授、中島勇・中東調査会主席研究員、宮家邦彦・立命館大学客員教授
- 2. 18（水）15：30～16：30（10階ホール）
曾蔭権（ドナルド・ツァン）香港行政長官記者会見
- 2. 19（木）10：30～11：30（10階ホール）
黒田東彦 アジア開発銀行総裁記者会見
- 2. 20（金）15：00～16：30（10階ホール）
シリーズ研究会「オバマのアメリカ」④
足立正彦・住友商事総合研究所シニアアナリスト
- 2. 23（月）15：00～16：30（10階ホール）
研究会「ユーラシア：アゼルバイジャン」
廣瀬陽子・静岡県立大学准教授

行事案内専用電話 03-3503-3764

日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をテーブルでお知らせしています。

写真回廊

撮影

梅村

直承

(うめむら・なおつね)
毎日新聞社写真部

阪神大震災から14年

「5時46分」

の声とともに黙とうする人々
神戸市中央区東遊園地
11・17



地域の防災力

日本列島に住む人は地震から逃れることができない。誰もが潜在的に「明日の被災者」である。仮に被災者になっても社会の「連帯の力」に信頼を置きたい。

そう思い定めても、できるだけ個人で地震に備えておきたいと思うのも人情だろう。備えの中心になるのは地震に強い住宅であろう。全国の住宅の4分の3が耐震基準を満たしているという。けれども地震が厄介なのは個人が耐震基準を満たしても安心できない点にある。住宅密集地帯で耐震化していない住宅が倒壊して火災が発生すれば、周囲の住宅が耐震構造になっていても類焼するかもしれない。

個人の力だけで大震災の被害を防ぐには限界がある。やはり地域や国土全体の耐震性なり防災力を強める視点が重要だということになる。地域の公共施設の耐震構造化は優先順位の高い課題だ。個人の住宅の耐震化も地域の防災力の強化に役立つのだから、場合によっては公的資金の投入を考慮してもよいだろう。

それにつけても定額給付金で2兆円をばらまくとはもったいない。例えば全国の小中学校を一挙に耐震構造に変える。2兆円もかからないし、はるかに賢明な使い方だと思う。

(中島 勝)